

先人の知恵「上総掘り」を海外へ (生活用水確保のための井戸掘り)

上総掘りをつたえる会

「上総掘り」ってなに？

上総掘りは江戸時代から、現在の千葉県君津地方において、鉄棒式や櫓棒式の突き掘り法から、明治16年頃に竹ひごを利用した掘り方へと発展しました。小櫃川流域や小糸川流域で、櫓・竹ひご・鉄管・スイコの組合せで上総掘りの独特の技術が発達し、自噴井戸が掘られ、人々の生活や農耕のために、水を供給してきました。明治25年頃には、新潟や秋田の油田開発にまで利用され、広く海外(インド)にまでも、The Kazusa Systemとして紹



写真1. 上総掘り櫓の写真

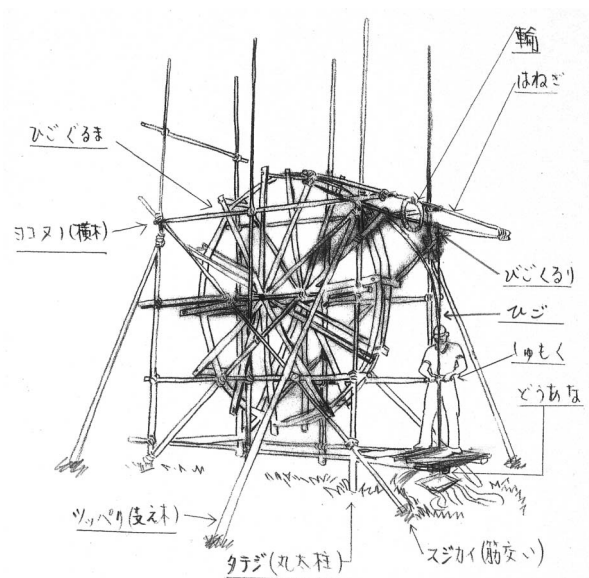


写真2. 上総掘り櫓のイラスト

介されています。高い水準の井戸掘りの技術です。

しかし、現在の日本ではボーリング技術の発達や水道の普及により、まったく利用されなくなってしまい、上総掘り用具は、国の重要有形民俗文化財に、技術は、重要無形民俗文化財に指定され、博物館入りしています。

会の概要と目的

1981年6月、次に掲げる目的をもって、故山田吉彦氏が数名の賛同者とともに、会を設立いたしました。

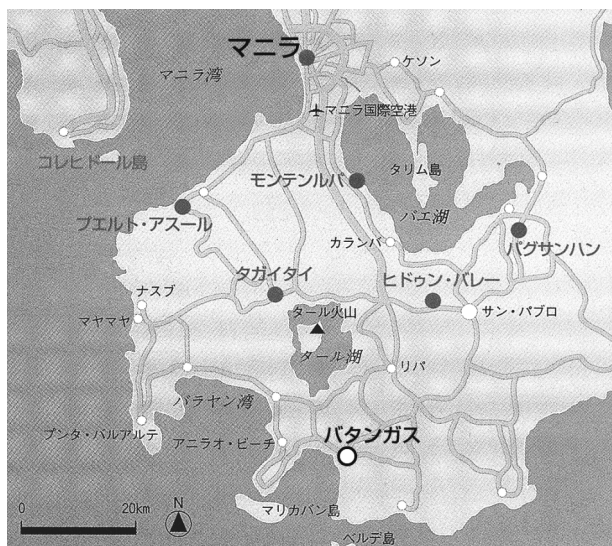
国の文化財である上総掘りの先人の知恵を、後世に伝えるとともに、水の大切さを訴え、技術を継承して保存活用をはかり、広く社会文化の発展に寄与すると共に、水不足に悩む東南アジアの人々にその技術を伝承し、国際交流・国際協力に役立てる事を目的としています。

活動の目的と内容

フィリピン・バタングス州は、水不足で公的な学校でさえ、水道が充分整備されていません。整備されていても使用料金が高く、又、停電で断水することも多々あります。上総掘りで深井戸を掘り、子どもたちの衛生環境を整えて、伝染病や皮膚病を予防し、生活の向上を計る。「万物の生命の源」でもある水の大切さ、日本の古い技術の素晴らしさを比国の人々に知ってもらい、相互理解を深め、国際協力に役立てています。

そして当会は、設立当初から、先輩の井戸掘り職人から若い会員に技術が継承され、先輩職人とともに、若い会員からフィリピンのボランティアに技術移転をしています。フィリピンのカウンターパートのアラン・アンヘレス氏は、掘削中のアクシデントもクリアできるようになりました。

「上総掘りをつたえる会」という名称の通り、先輩職人から若い会員へ、そして海外の人々へ伝えるという目的は達成できた事を確信いたしました。



マニラ周辺地図



写真3. タライボンNHS井戸の写真 1993年

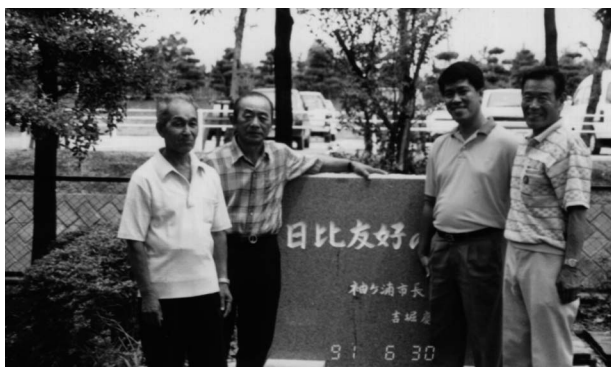


写真4. 先輩職人

今回（平成17年）は日本から会のメンバー4名が訪比し、バタンガス州のメンバー7名と一緒に、州内のキロキロ小学校に深井戸を掘りました。14日間の滞在期間には、市長への表敬訪問や現地の井戸の状況視察、当会が井戸を掘った学校をメンテナンスのための訪問をしたり、現地の住民や先生・生徒との交流会も催しました。今回のキロキロ小学校の上総掘りによる井戸掘り活動は、平成

17年度 千葉県国際協力モデル事業に採択された事業です。



写真5. キロキロ小 日比ボランティアメンバー



写真6. キロキロ小 槽の中に人が入りひごを下げている

フィリピン・バタンガス州 パドレガルシア地区キロキロ小学校

児童数	男子	女子	計
1学年	33	22	55名
2学年	46	45	91名
3学年	39	45	84名
4学年	39	37	76名
5学年	32	44	76名
6学年	47	31	78名
計	236名	224名	460名

教師数 10名

★今までにフィリピン・バタンガス州に掘った学校

1. タライボン ナショナルハイスクール
2. ピナトングラン //
3. リブホ エレメンタリースクール
4. フリアン //
5. ロドロド ナショナルハイスクール
6. パルサラ エレメンタリースクール
7. ワワ //
8. ボルボック //
9. キロキロ //

★JICA事業で小学校に掘る

★フリアン小学校とキロキロ小学校の壊れていた井戸の修理

★貧しいコミュニティと全く水のない畑の真中に各々建設
 ★ミンダナオ・ブトワン
 ★インドネシア・ジョグジャカルタのコミュニティと
 小学校に各々建設
 ★貧しいコミュニティ(カリंगा地区)に動力で建設
 ◎海外 新基井戸 16基、修理 2基 ◎国内 6基
 国内では、フィリピンでの井戸掘り活動を、社会
 福祉協議会や小学校、中学校や公民館等で報告会
 を開催しながら、『水の大切さ』を訴えています。

実施する上で気をつけている事

今まで海外で井戸掘り活動をするにあたって、私
 達は次のような事に留意し、工夫し、苦勞しました。

1. 自分たちの安全管理。
2. 毎回、地質が違うので、メンバーにも道具に
 も、事故のないように慎重に作業する事。
3. 16年続いているカウンターパートのアラン・
 アンヘレス氏と綿密な打ち合わせ。
4. そして今回は、掘鉄管を地中で土に押さえられ
 てしまい、抜けなくなってしまいました。1時間
 30分ぐらいかかりましたが、無事掘鉄管を引
 き上げ、掘削を続け、井戸が完成しました。



写真7. キロキロ小 ひごをくさびで接続中



写真8. キロキロ小 ポンプを据え付け水が出たところ

活動の効果

井戸が完成したことにより、水不足が少し解消し、

衛生面・健康面において、生活が向上しました。

日本からの井戸掘りボランティアの訪問は、フィ
 リピン・バタンガス州の田舎町の学校の先生や児
 童、地域の住民にとって、顔や言葉が違い、はじ
 めは戸惑っていましたが、一緒に作業しているう
 ちに「水を得る」という目的に向かって、「協働」
 の喜びを共にでき、「日本」という国に対して好感を
 持ってくれました。そして、フィリピンのボランティ
 アメンバーは、日本の昔からの技術を習得し、新
 しいメンバーに指導も出来るようになりました。

今後の計画と課題

- ・これからも毎年1本の井戸建設を目標に、国の
 文化財である上総掘り技術を水不足の国々に
 伝えていきます。
- ・フィリピン・バタンガス州の他、セブ島やベ
 トナムへの事業計画が進行中です。
- ・今、日本国内に上総掘り技術者が少なく、後継者
 を育てて行く事が大きな課題となっております。

終わりに

「アジアの子どもたちにきれいな水を！」のスロ
 ーガンの元、多くの皆様の善意に支えられながら、
 国際協力活動ができる事を、喜びとともに感謝申
 しあげます。(私達は、地球のすべての子ども達の
 幸せを願って、学校建設・学資支援・衣料支援・
 給食支援も行っています)

今回の第9回日本水大賞の国際貢献賞という荣誉
 ある受賞を励みとして、これからも『命の水』を
 贈り続けたいと思っています。



写真9. カリंगा地区での衣料支援



写真10. セブ島ガタルーベ小での給食支援

代表 高橋 文代

渡辺 ひろ子	勝畑 浩	勝畑 則子
寺嶋 裕子	寺嶋 亜紀	吉田 秀男
高橋 和子	深沢 和彦	